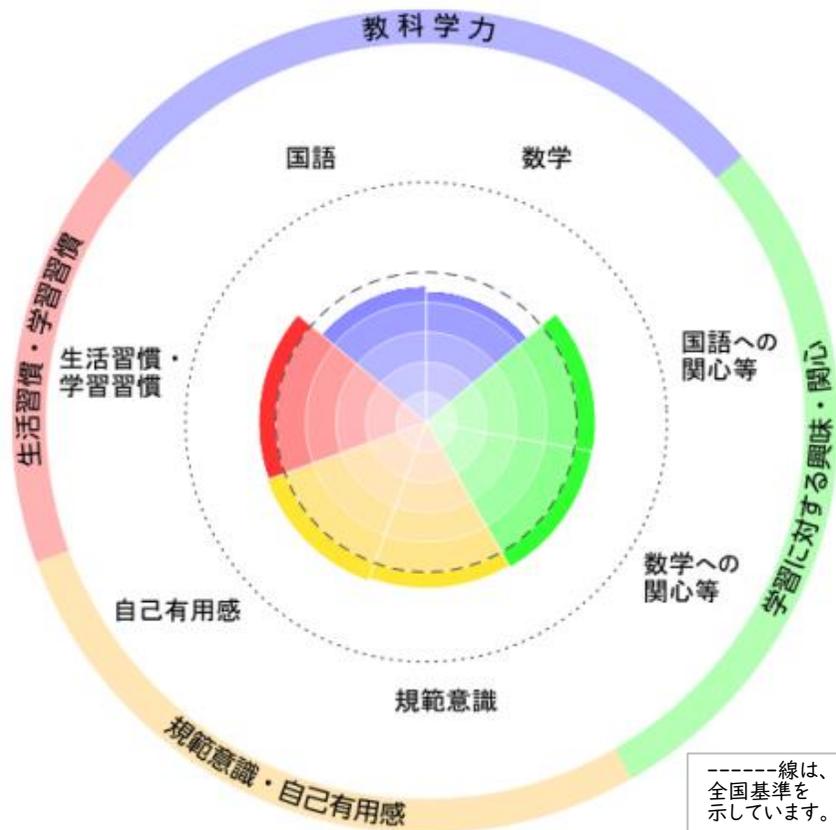


令和6年度 全国学力・学習状況調査における筑西市内中学校等の結果について

筑西市内中学校等の結果についてお知らせします。なお、この調査の目的や、調査結果は学力の特定に一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

1 令和6年度全国学力・学習状況調査における本校の結果

本市のレーダーチャート



-----線は、
全国基準を
示しています。

対象 象：市内中学校第3学年及び義務教育学校第9学年
対象生徒数：6校 661人
調査内容：国語、数学、生徒質問紙

2 教科に関する調査（レーダーチャートの「国語、数学」）○：成果、●：課題

【国語】

- 具体と抽象など情報と情報との関係についての理解について一定の成果が得られた。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることの理解について一定の成果が得られた。
- 意見と根拠など情報と情報との関係についての理解について課題がある。
- 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。
- 記述式問題は、正答率が低く、無回答率が高いことから、考えをまとめたり、要約したりすることに課題がある。

<今後の取組>

- ・基礎的・基本的な[知識及び技能]の確実な定着（正確に覚える、使える”道具”にする指導）
- (2) 情報の扱い方に関する事項に明記されている、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象等の言葉の概念をきちんと理解できるようにしていく。
- 系統性（事象や行為、心情を表す語句→抽象的概念、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句→慣用語、四字熟語、和語、漢語、外来語）を意識した語彙指導の充実、漢字ポートフォリオの作成を通して指導していく。
- ・[思考力、判断力、表現力等]A～Cの学習過程を意識して、「考えの形成」「共有」ができるように指導していく。
- ・「考え」「感想」「意見」等を書く活動に意識して取り組んでいく。

【数学】

- グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することなど、関数領域の問題において一定の成果が得られた。
- 連続する二つの偶数を文字を用いた式で表したり、等式を目的に応じて変形したりすることなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。
- 筋道を立てて考え証明したり、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることに、引き続き課題がある。

<今後の取組>

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着（正確に覚える、使える”道具”にする指導）
- 数量及び数量の関係を捉え説明する場面において、事象における数量や数量の関係を用いた式で表すことができるようにしたり、ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導していく。
- ・自分の考えを論理的に記述するスキルの定着（口頭、図示等で説明するだけでなく、記述内容の質を高める指導）
- 事柄が成り立つことを証明できるようにするために、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導していく。また、日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させていく。

3 生徒質問紙調査（レーダーチャートの「関心等」～「学習習慣」）○：成果、●：課題

- 「学校に行くのは楽しい」「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒の割合(91.2%、74.5%)は、全国・県より高い。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と肯定的な回答をした生徒の割合(86.1%)は、全国・県より高い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答した生徒の割合が全国・県より低い。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に対して、「発表していなかった」、「考えを発表する機会はなかった」と回答した生徒の割合は、全国・県より高い。
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合は、全国・県より低い。

<今後の取組等>

- ・一人一人の子供を主語とした学びへの転換を図るとともに、探究的な学びの充実やICTの効果的な活用などによる豊かな学びの展開に努めていく。特に、授業デザインにおいて、自分の考えを可視化して対話したり、学びの成果を発信したりするなどのアウトプットや、チャレンジと失敗を繰り返しながら課題解決に取り組む思考錯誤などに意を注いでいく。
- ・「筑西市授業改革推進チーム協議会」を中心に、一人一台端末を効果的に活用した授業改善を各校で推進し、自分の「なぜ」を解決したり、「分かった」「できた」を共有したりする学びが展開されるようにしていく。